

ECOSOC YOUTH FORUM 2018

事業報告書



J.Y.P.S.

Japan Youth Platform for Sustainability



目次

Executive Summary	2
プログラム	3
具体的なスケジュール	3
背景	3
Japan Youth Platform for Sustainability	3
UN Major Group for Children and Youth	4
ECOSOC Youth Forum	4
JYPS派遣団員名簿	5
スケジュール	6
1月29日	6
1月30日	6
1月31日	9
サイドイベント	13
発言	15
2月1日	15
Networking	17
国連日本政府代表部への挨拶	17
広報活動報告	18
広報戦略概要	18
SNSやホームページを通じた発信	18
総括	24
成果	24

Executive Summary

2018年のECOSOCユースフォーラム（以下ユースフォーラム）は、1月30日と31日の2日間にかけてアメリカ合衆国のニューヨークにある国際連合本部で開催され、Japan Youth Platform for Sustainabilityからは5名を派遣しました。また前日である1月29日と会議翌日の2月1日にはUN Major Group for Children and Youth（以下UN MGCY）とのミーティングにも参加しました。ユースフォーラムは、世界中から集まったユースの参画を促進し、さらにハイレベル政治フォーラムでも議論される内容について理解を深める大変良い機会であり、今回の会議を受けてのECOSOC総裁による成果文書は今年のECOSOCの公式報告書の一部となります。また、ユースフォーラムは1月の後半という一年の中でも早い時期に開催されることから、この会議は世界中のユースが7月に開催されるハイレベル政治フォーラムでの交渉に向けて事前に準備していく良い機会であると期待されます。

プログラム

具体的なスケジュール

日程の詳細は以下のリンクからダウンロード可能です。

https://www.un.org/ecosoc/sites/www.un.org.ecosoc/files/files/en/2018doc/2018_ecosoc_youth_forum_programme.pdf

背景



Japan Youth Platform for Sustainability

Japan Youth Platform for Sustainability (JYPS) とは、2015年に国連で採択された「ポスト2015 開発アジェンダ」やその他国連で行われているさまざまな枠組みを作るための議論に向けて日本の若者の声を集約し、政策として日本政府や国連機関、そのほかの市民社会にその声を届けていくための「場」です。代表はなく、選出される幹事及び事務局のもとで若者の「アドボカシー（政策提言）」として、キャンペーン、イベント、記事掲載その他を通じて、さまざまなバックグラウンドをもつ若者の声を実現していくためにあります。30歳以下の個人または、そのような個人で構成される団体、もしくは30歳以下の若者と働く団体であれば、だれでも参加することが可能です。

実際にJYPSはこれまで国連および日本国内における持続可能な開発やそれに関する会議へと参画してきました。昨年度は国際面ではG7伊勢志摩サミット、HLPF、APEC、TICAD等、国内面ではODA政策協議会、日本政府によるSDGs国内時指針・骨子の制定プロセス等への参画を行っています。2017年のハイレベル政治フォーラムには、日本人ユースを10名派遣し、日本政府の自発的国別レビュー(Voluntary National Review: VNR)の際にはこれまでSDGs国内実施のプロセスに関わってきた市民社会の若者プラットフォームとして、そして国連子どもと若者メジャーグループ(UN MGCY)の一員として代表理事の小池宏隆が岸田外務大臣(当時)に対して意見を述べました。



UN Major Group for Children and Youth

国連子どもと若者メジャーグループ (UNMGCY) は、1992年に採択されたアジェンダ 21に基づき、持続可能な開発を進めていく上で、意思決定に関わらないといけない重要な社会の構成員であるメジャーグループと呼ばれるグループの一つです。このようなメジャーグループは、「子どもと若者」の他に8つあり、合計で9つが国連で定義されています。UN MGCYは子どもと若者の国連の持続可能な開発に関する交渉における参画を調整し、代表制ある声を届ける、国連における公式な子どもと若者参画枠組みです。



ECOSOC Youth Forum

2018年1月30日(火)から1月31日(水)の2日間に渡り、アメリカ合衆国のニューヨークにある国際連合本部で[ECOSOCユースフォーラム](#)が開催されました。

ユースフォーラムは世界中から集まったユースたちが、政府の代表者や各国ユースの代表、政策担当者、その他ステークホルダーたちと関わり、地域レベル、国レベル、国家間レベルで政

策の枠組みやイノベーション、ユース参画、レジリエンスの強化、持続可能性などについての意見を交わす場です。今年は世界中から700人以上のユースが参加しました。(名簿参照)



今回のユースフォーラムでは、2018年のHLPFのレビュー対象に合わせて以下の6つのゴールを中心に若者の参画の重要性について議論が行われました。

SDG 6: すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

SDG 7: すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

SDG 11: 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する

SDG 12: 持続可能な生産消費形態を確保する

SDG 15: 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

SDG 17: 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化

JYPS派遣団員名簿

名前	Name	役職
小池 宏隆	Hiroataka Koike	顧問
遠藤 あんな	Anna Gaspar Pereira Endo	政策局統括
清水 唯羽	Yu Shimizu	政策局員
加戸 菜々恵	Nanami Kado	広報局員
中島 寿美子	Sumiko Nakashima	政策局員

スケジュール

1月29日



ユースフォーラム前日に行われたUN MGCYとの戦略ミーティングの様子

ECOSOCユースフォーラム前日である1月29日には、翌日からの会議に備えた戦略ミーティングがニューヨークにある国連人口基金(UN FPA)でUN MGCY主催のもと開催されました。ミーティングではユースフォーラムやUN MGCYについての基本的な知識の共有、またそれぞれの参加者が持つ知識を共有し、今回の会議を今後のユースアドボカシーに活かしていくための手段を話し合いました。

1月30日

OPENING SESSION

今回のECOSOC ユースフォーラムのオープニングセッションで登壇されたのは5人。ECOSOCの理事である、Marie Chatardová氏は、農村部と都市部の双方にとって持続可能な目標を設定するにはどうしたらいいのか、という点に注目して若者の重要性と国連との有意義な関わり方について述べました。国連総会の議長であるMiroslav Lajčák氏は、「若者に対する投資は私たち全員への将来への投資である」と主張し、若者の将来への期待に言及しました。加えて、IFSA(International Freeskiers and Snowboarders Association: IFSA)の理事である、Salina Abraham氏は、SDGsに対するアプローチとして、支援、傾聴、そして参画 (Support, Listen, and Engagement) を必須条件として挙げました。国連副事務総長である、Amina J. Mohammed氏は、若者の声を国連ではなく各国で最大限に生かすことの重要性を強調し、オープニングセッション最後には国連ユース特使、Jayathma Wickramanayake氏が「誰一人取り残してはいけない。」というSDGsの根幹を支える信念を共有しセッションを閉めました。



国連副事務総長であるAmina J. Mohammed氏と国連ユース特使のJayathma Wickramanayake氏の写真

PLENARY SESSION

このセッションでは、各国の代表やユースの代表がアジェンダ2030に若者が関わっていくことの重要性が指摘されました。各国代表は、自国でのアジェンダ2030の達成における若者の活躍を具体例を交えながら述べ紹介し、またユース代表は若者の可能性や役割を主張しました。その中でも、教育や雇用など若者に直接的に関わる分野での若者の積極的な参画を各国代表から求める声が多かったのが印象的でした。

BREAKOUT SESSIONS : 目標別セッション



SDGsゴール7に関するセッションの写真

SDG 6: すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

SDG6の目標別セッションでは、若者の参画がいかに目標6のより効果的な達成に貢献できるのかについての発表が最初にされました。その後、実際にどのように目標達成に向けた政策やプロジェクトに参画することができるのかについて各国ユースが少人数に分かれグループにて議論を行いました。ゴール間の相互作用という観点から、他のSDGsとSDG6を比較してそれぞれ目標に対して同時にアプローチする方法について話し合いました。今回のセッションでは若者の様々なグループ同士での協力は目標を達成する上で必須なのだと改めて確認することができました。

SDG 11: 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する

このセッションでは「住みやすいまちづくり」をテーマとしたSDGs目標11について議論が行われました。パネリストによる具体的なまちづくりとは何なのかという話の後、下記の4つのグループに分かれて意見交換を行いました。

- UNボランティアのメンバーとしてのユースのまちづくりへの貢献
- 女性が住みやすいまちづくり
- 移民数の増加を受けたまちづくりの変容
- プライベートセクターのまちづくりとの関わり

上記のグループでの意見交換では、ユースの視点から見た誰もが住みやすいまちづくりとは何かを議論し、発表し合いました。JYPSメンバーが参加していた移民のグループでは、移民の多くが話す言語で表記された駅名を増やしていく必要があるなどといった、それぞれの地域の文化を壊さずに移民が生活しやすい場の在り方について考えました。

SDG 12: 持続可能な生産消費形態を確保する

このセッションでは、SDGs 目標12「持続可能な消費と生産のパターンを確立する」ためには何が必要なのか、そして若者はどのように行動を起こしていくべきなのかについて議論がされました。これまでは、消費者として責任ある消費行動を取ることが、持続可能な消費と生産の関係実現に必要なだとされていました。しかし、消費者の行動変化のみでなく、生産者側にこれまでとは異なる持続可能な生産パターンを訴えていくことも消費者としての大切な役割だという意見がパネリストから述べられました。あたらしい認識の浸透には政策レベルでの変革が必要であり、その場に若者の参画が必要不可欠であるという意見は賛同を集めました。

SDG 17: 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化 する

貧困の根絶や健康な生活の達成、そして”誰一人取り残さない”という国連の目標を達成するために科学技術イノベーションが不可欠な要素であることは、2017年に開催されたSTIフォーラム (Multi-stakeholder Forum on Science, Technology and Innovation for the SDGs)の共同議長が発表した要旨にも明記されています。また、同要項はSDGsに関連する問題の特定や解決の要としても注目されています。”アイデアソン”と名付けられた今回のセッションでは科学技術イノベーションの重要性を再確認すると共に、各国での実際の活用例が紹介されました。その後はそれらを活用して以下の3つのテーマについてどのように働きかけていけるかが議論されました。

1. どのようにユースがSTIの政策過程に関わっていけるか
2. STIのユース参画における障害とは何か、そしてそれらをどのように乗り越えていくか
3. 持続可能な開発におけるユース参画において、今後STIがどのようにより広い範囲で影響を与えていけるか

これらに対して、STIのプロセスを確立させていくことが非常に重要ですが、ひとつだけでは十分でないため複数のプロセスの確立が必要です。またこのような会議などで得た知識や情報などを会議後にそれぞれのコミュニティに伝えることによってSTIについての理解やユース参画の向上が見込めるのではないかなどの声が上がりました。

1月31日

BREAKOUT SESSIONS : 地域別セッション



アフリカのセッションの写真

アフリカ

アフリカのセッションでは、"Winning the Fight Against Corruption"（汚職撲滅運動の勝利？）をテーマとし、汚職など腐敗した政治が問題視されている状況におけるユースの役割の可能性、今後のアフリカに関わる行動でのユースの参画、SDGsの普及などについての議論がなされました。多くの参加者の間で、"腐敗した状況が嫌で政府から遠ざかれば何も起らない。声を発せず行動をしなければ何も変化が起らない。とにかく声を発し続けること、行動すること、自分たちを表現する場がなければその場所を作ること。"という認識が理解・共有されていたことが印象的でした。セッションの最後には、司会者から、"もしエレベーターでいきなりアフリカ連合の現総会議長であるカガメ大統領に出会ったら20秒という限られた時間の中で何を伝える？"という質問や"あなたがいま達成・約束したいことは何？"という質問がされ、汚職などをするとする選択肢さえ人々の頭の中に思い付かないようにしたい。ユースの参画のスペースの必要性を唱える。など複数人のユースが力強く答えました。

中南米諸国・カリブ海諸島

ラテンアメリカとカリブ諸島のセッションでは、教育分野により力を注ぐべきだと考えている人が多く集まりました。SDGsがきちんと果たされないことで一番困る人たちが、このような目標があることすら知らない状況がこの地域では特に多いことが問題視されました。自分は国連やそこでの決定などとは関係がないと思っている人たちにSDGsを浸透させることが課題であり、そのためにはユースへの取り組みが鍵となります。また、セッションの中では、教育に

関わる団体で働いているユースを中心に、絵や簡単な説明を使ってSDGsの重要性を広めていくためにはどうしたらいいか話し合いが行われました。

アジア・太平洋地域

アジア・太平洋地域のセッションでは、政府がSDGsに向けた政策に対する責任の重要性から始まり、どのように若者が持続可能性を成し遂げることが可能かなどを若者グループの各国代表が国の実例を挙げて議論しました。雇用率の減少や農村部の孤立化など様々な各国の問題を、特に教育の充実、各地域同士でのエンゲージメント、そして技術の向上などに注目したプロジェクトや政策によって解決しようと取り組んでいる国が多くみられました。そして、若者の力を最大限に引き出すためには若者を参画させる方法や仕組みが重要であると述べられていました。

アラブ諸国

このセッションでは、政府、国連、市民社会、民間部門の四つのグループに分かれ、アラブ地域の若者が抱える問題に対してそれぞれがどのような対策を講じるべきなのかということについて議論が行われました。男女不平等や地域格差などアラブ地域での深刻な問題に関するものが多い中、すべてのグループが教育改革の必要性を訴えました。そして、そのような改革の場に若者の意見がもっと積極的に取り入れられるべきだという意見も上がりました。

PLENARY SESSION 1

このセッションでは、アフリカ、欧米諸国、ラテンアメリカ及びカリブ地域、アジア太平洋、そしてアラブ地域の順に、午前に行われた地域別のブレイクアウトセッションでまとめられた、それぞれの地域で若者が直面する問題とその解決策が発表されました。それぞれの地域で若者が抱える問題は多少なりとも違うものの、若者の問題を解決するためには若者自身がかもっと積極的に参画をしていかなければならないという意見は一致しました。教育、雇用、経済など若者が直面する問題は多いにもかかわらず、若者がそういった問題解決の場になかなか関わっていないということに、もっと真剣に取り組むべきなのだとか改めて考えさせられるセッションとなりました。



PLENARY SESSION 2: 実施の意義と若者の発展に対する財政運営

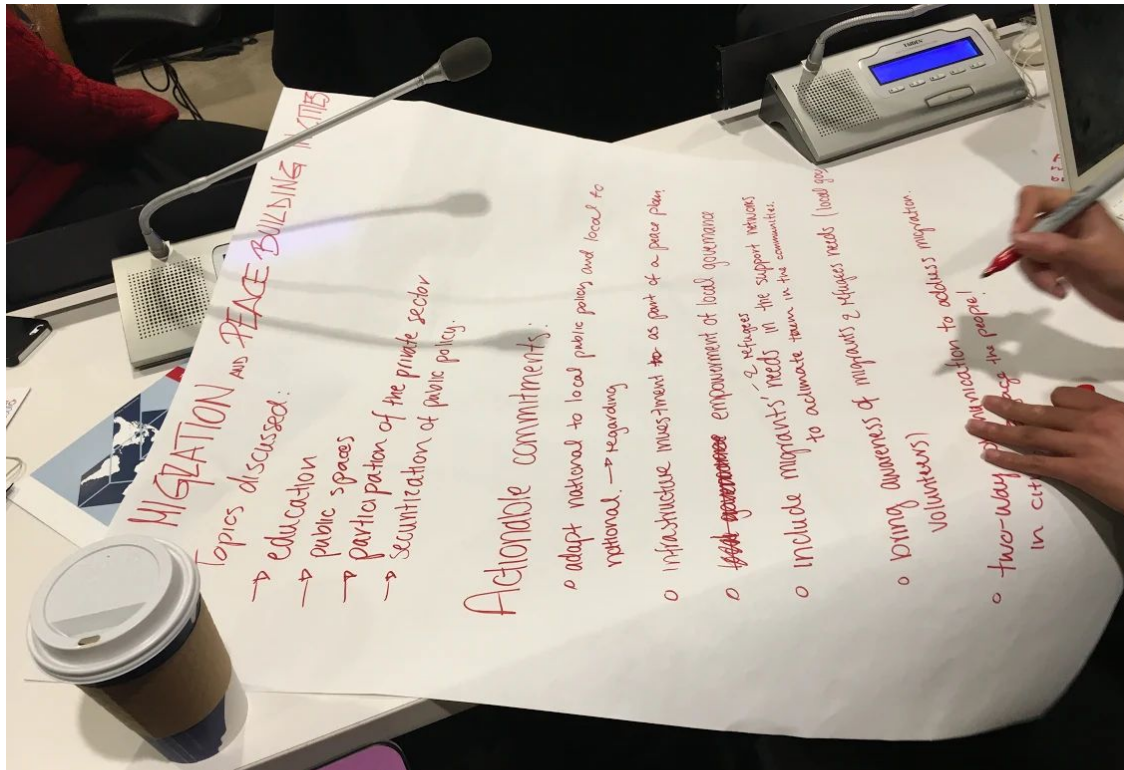
今回の本議会では、特にパートナーシップ、教育、そして財政の観点から若者の参加を促す政策作りを各国が訴えかけました。各国、各ステークホルダー、地域同士での協力、充実した教育や教育向上に努めること、加えて、政策やプロジェクトに対しての財政支援がSDGsの達成に大きく繋がることを、各国が抱える問題と共に、施行している政策などの実例を含めて発表しました。

PLENARY SESSION 3

今回のセッションでは、特に若者の団体が活動を行う上で主軸となる資金の重要性が各国代表によって強調されました。また、国連や市民社会における資金調達の必要性や不足状況などについても主張されました。具体的な内容としては、実際の政策やプロジェクトを例に挙げたそれぞれの課題の解決について資金の事情を交えて述べられ、各国・各団体間での協力を強固にし、資金の支援などを促進することがSDGsを達成する上で必要不可欠であるということを確認しました。

サイドイベント

1月30日: 移民に関するグローバルコンパクトについてのユースコンサルテーション



移民に関する政策の実施を考えるグループ議論の写真

今回のサイドイベントは、国連における移民の定義の確認に始まり、またどのような手段で移民のグローバルコンパクトを効果的に地域・国内・国際レベルで実施していくべきかという話がスピーカーによってされました。その議論に加えて、移民問題をよりグローバル規模で捉え、平等に考えるためにどのように取り組むべきかを全体で考えました。その後参加者たちは、移住と移民に関する5つのトピック（移民の雇用状態、人権、子供の権利、災害移民、そして交渉のフォローアップ）に分かれ、それぞれ議論を行い、最終的にそれぞれのトピックの最重要点をまとめました。

1月31日: 有意義で制度的なユース参画への機会、障壁、挑戦



サイドイベントでの写真

SDGs達成に向けたより多くの機会を生み出すために、国連での若者の組織的な協力を促すサイドイベントが行われました。このイベントでは、今年度のHLPFに向けて各国の若者の連携をどのように強化していくべきかという論題を話し合いました。その前提として、財政や他組織とのコネクションなどの面において各若者グループの強化を支援し得る団体を国連や市民社会から招待し、それぞれの団体についての説明を行いました。

発言



開発資金に関する発言をする小池の写真

午後のメインセッション3の最後には、JYPS顧問でありUN MGCYのグローバルコーディネーターである小池が開発資金について発言しました。JYPSはUN MGCYの中でも特に開発資金 (Financing for Development: FfD)のシステムに力を入れており、同じく本会議派遣団員の遠藤と清水が現在もニューヨークでUNMGCY及びJYPSのFfDコーディネーターを務め、各種会議への参画及び政策提言を行っています。

小池は、今回のセッションの与えられた時間の中で、ユースの立場から考えた開発資金の重要性、またアディスアベバ行動目標(AAAA)とAgenda2030の開発資金のゴールを達成させるためには現在の各国の取り組みでは十分でないということを言及しました。

2月1日

UN MGCYとのミーティング



ユースフォーラム翌日のUN MGCYでのミーティングの写真

ユースフォーラムの翌日の2月1日にはUN MGCYとしてユースフォーラム後の振り返りミーティングを行いました。課題としては以下の項目が挙げられました。まずユース全体としての知識や情報共有が事前にされていないこと。また、参加者の知識の偏りや不足。最後にUN MGCYとしてセッション中にノートを取っていないことです。そのため、解決策としては、ユースフォーラムの事前に情報を共有できるようなドキュメントを作成し各参加者がその資料からセッションやイベントに必要な基礎知識や情報を得られるようにすること。事前知識を蓄えるための事前ウェブセミナーの開催。セッション中にもUN MGCY全体として共有するノートを常にとる。といった点などが挙げられ、来年のユースフォーラムに向けて前向きな議論されました。また、その後はUN MGCYにおける気候変動、移民、女性の地位、開発資金、HLPF等のそれぞれのグローバルフォーカスポイントから今後の動きや重要な情報などが共有されミーティングが終了しました。

Networking

国連日本政府代表部への挨拶



左からJYPS清水、遠藤、山田書記官の写真。国連日本政府代表部のオフィスにて

ユースフォーラムの翌日には、今回の会議でJYPSがどのような活動をしていたのか報告すると共に、昨年、及び一昨年のハイレベル政治フォーラムの際にもお世話になった山田書記官にご挨拶をするべく、国連日本政府代表部に伺いました。1時間という時間の中で、ユースフォーラムの報告だけでなく、HLPF以降のJYPSの活動についてや、JYPSがUN MGCYとの連携をどのように行っているのかなどのお話もしました。7月に開催される今年のHLPFの中では日本政府は自発的国別レビュー(Voluntary National Review: VNR)を発表しませんが、どのように日本政府がこのHLPFと関わっていくのか、ユースとしてなにができるか、また2018年のHLPFでのサイドイベントの共同開催の提案など具体的な話も進めることが出来ました。

ECOSOCプレジデントと国連ユース特使との交流



JYPSメンバー3人が国連ユース特使と写真を撮ることが出来ました。またその際に、是非日本にも来て欲しいという思いを伝えることが出来ました。



2日目のメインセッション後にECOSOCのプレジデントと写真を撮ることが出来ました。

広報活動報告

広報戦略概要

広報戦略として、

- ECOSOC Youth Forumを通じて国連やユース参画などを身近に感じてもらうこと
- SDGsやHLPFの認知度を向上させること
- JYPSの活動に興味を持ってもらえるような発信をすること

の3点を目的に活動しました。

SNSやホームページを通じた発信

SNSやホームページを通じた発信として、ブログ（HP）、Twitter、Facebook、Instagramで発信を行いました。ブログに投稿した記事を各SNSでシェアするなどの連携も行いました。また、#ecosocyouthforum、#youth2030などのハッシュタグを活用し、連携団体との繋がりも意識して情報の発信を行いました。

ブログの運用

ECOSOCユースフォーラムの前日である1月29日から4日間、ユースフォーラムに関する基本的な背景となる知識、そして会議中の行動やユースフォーラムの中で何が話し合われているのかなどをブログを通して毎日報告・発信しました。世界中から700人以上のユースたちが集まった今回のユースフォーラムの中で、日本人の参加者は少なく、日本語で発信している情報源は限られていました。従って、JYPSではその若者の視点かつ日本語を意識して情報発信を行いました。また、派遣団全員で執筆し、写真を多く取り入れながらブログを投稿したことで、SDGsやHLPF、ユース参画に関心がある層のみならず、派遣団の友人繋がりやそもそも関心を持っていない層にも知ってもらうことが可能になったと考えています。

ブログ記事一覧

#	タイトル
1	【ECOSOC Youth Forum レポート Vol.1】
2	【ECOSOC Youth Forum レポート Vol.2】
3	【ECOSOC Youth Forum レポート Vol.3】
4	【ECOSOC Youth Forum レポート Vol.4】

ウェブサイト : <http://japanyouthplatform.wixsite.com/jyps>

【ECOSOC Youth Forum レポート Vol.1】

January 30, 2018



こんにちは、Japan Youth Platform for Sustainability (JYPS) 政策局オフィサーの加戸です！今回は明日より開催されるECOSOC Youth Forumについてお話しします。

第7回ECOSOC Youth Forumはニューヨーク現地時間1月30日より2日間、国際連合本部にて開催されます。

JYPSからは私を含む計5人（顧問の小池、政策局の遠藤、清水、中島）が出席予定です。

JYPSメンバーは前日にあたる29日より現地入りし、国連人口基金（UNFPA）にて国連の子供と若者のメジャーグループであるU...

【ECOSOC Youth Forum レポート Vol.2】

January 31, 2018



こんにちは、Japan Youth Platform for Sustainability (JYPS) 政策局オフィサーの中島です。いよいよECOSOC Youth Forum 1日目です！え、ECOSOCって？と思った方は[ECOSOC Youth Forum レポート Vol.1](#)をチェック！！今日は朝7時からNYのラッシュアワーの地下鉄に乗り、国連本部に向かいました。とっても個人的な話になるのですが、たくさんの方が行き交いなんとも言えないエネルギーに満ち溢れた、NYという街が私は大好きです！！エネルギーに満ち溢れている...

【ECOSOC Youth Forum レポート Vol.3】

February 1, 2018



こんにちは、Japan Youth Platform for Sustainability (JYPS) 政策局オフィサーの清水です。今日で2日間のECOSOC Youth Forum が終了しました！今日は昨日のようにSDGsのゴールごとのブレイクアウトセッションではなく、Africa、Europe、North America and other States、Latin America and the Caribbean、Asia and the Pacific、Arab States regionという地域ごとに別れたブレイ...

[続きを読む](#)

【ECOSOC Youth Forum レポート Vol.4】

February 2, 2018 | 遠藤あんな



みなさんお久しぶりです！JYPS政策局統括の遠藤あんなです。

夏のハイレベル政治フォーラム (HLPF) 以来のブログなのでワクワクしています。

(その時も派遣団が日替わりで毎日ブログを書いていたので興味がある方は見てみてください！—

[LINK](#))

初日2日間のブログを書いていた政策局オフィサーの加戸と中島が昨日の夜、夜行バスで大学に帰ってしまったため、派遣最終日は政策局員の清水と二人で乗り切りました！

ECOSOC Youth Forumが昨日終了したので、この会議でJYPSがどのような活動をしていたのか報告すると同時に、HLPFの際も...

Twitterの運用

TwitterではJYPS派遣団員が執筆したブログのシェアの他、会議の様子や発言などの実況を行いました。特にメインのセッション中にはそれぞれのスピーカーごとに印象に残ったコメントを写真と共にツイートし、ユースフォーラムのその場にはいない方々にもその場の雰囲気リアルタイムで伝わるように心がけました。ECOSOC期間中だけで50回以上のツイートを行い、多いものでは1ツイート当たり約3000のインプレッション（投稿が見られた回数）を記録しました。



フォロワー数は2017年7月のHLPF時点の233人から163人増え現在396人まで増加しました。(2018年2月10日現在)

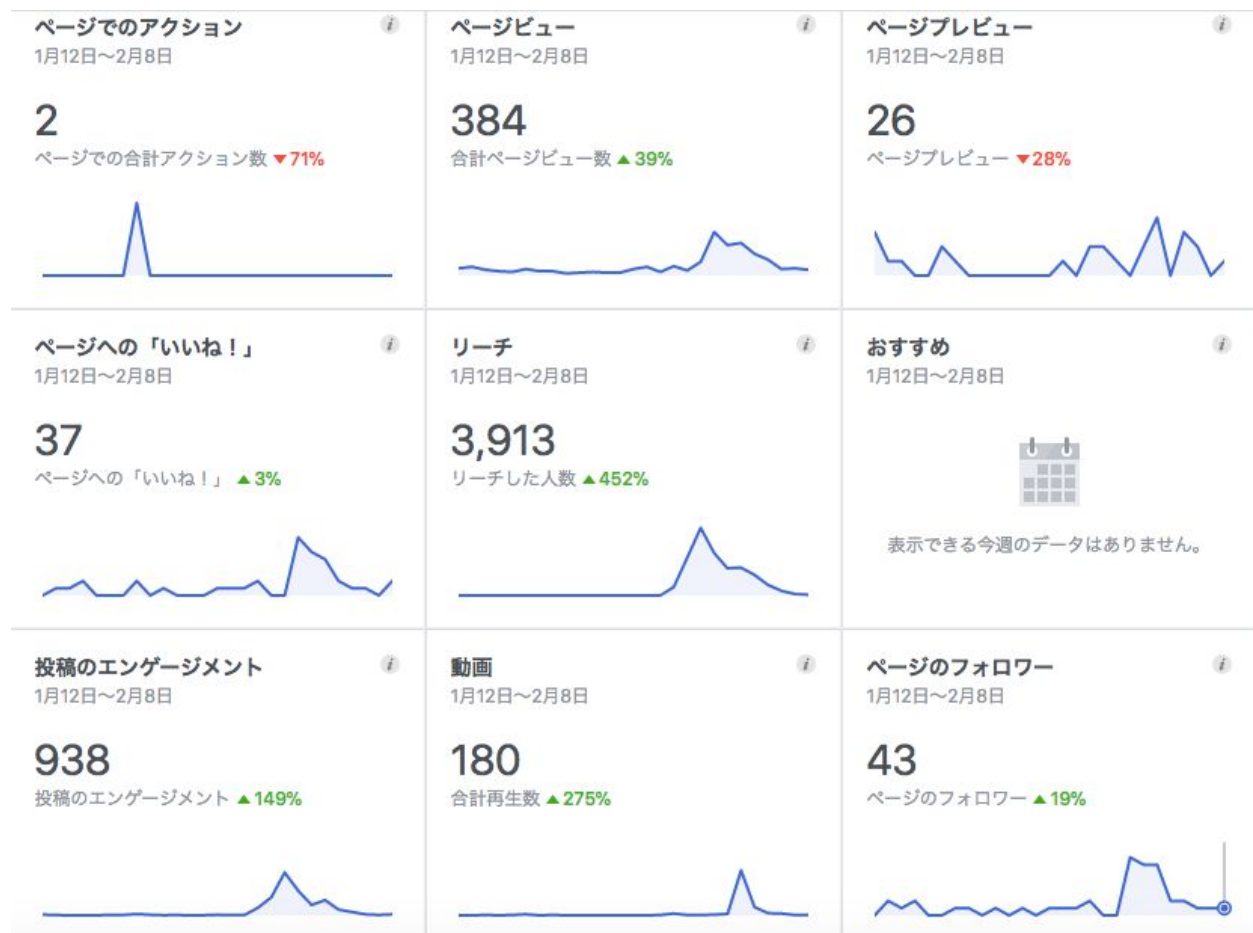
Facebookの運用

Facebookでは、JYPS派遣団のブログのシェアを行いました。普段の投稿ではリーチ数（ポストを見た人数）が300~700程度なのに対し、本投稿では最大1900のリーチを計上しました。これは、ECOSOCの話題性や他SNSとの相乗効果によるものと考えられます。

投稿日	題名	リーチ数	エンゲージメント数
1月30日	【ECOSOC Youth Forumってなんだろう？】	1900	184
1月31日	【ECOSOC Youth Forum 1日目！！】	1400	238
2月1日	【ECOSOC Youth Forum 2日目！】	683	34
2月2日	【ECOSOC Youth Forumまとめ】	84	75

※リーチはユニークユーザーに対するインプレッション（投稿の表示）。

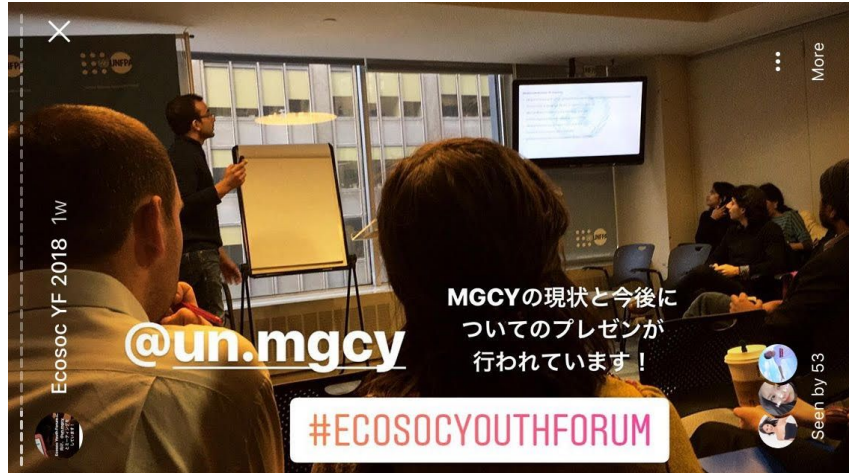
※エンゲージメントはポストのクリック回数にポストに対する行動（リアクション、コメント、シェア）を足したものの。



Facebookのフォロワー数は2017年の7月時点の1142人から1479人まで337人増加しました。(2018年2月10日現在)

Instagramの運用

Instagramではストーリー機能を活用し、ユースフォーラム中の派遣団の動きがリアルタイムかつ身近に感じられるように意識しました。ユースフォーラム期間中は2日間の合計で1065のリーチを達成しました。



また、ECOSOC期間中に2回に分けて行った投稿では以下の数値を得ました。

投稿日	題名	リーチ数	エンゲージメント数
1月30日	【Ecosoc Youth Forum 😊 day 1】	226	55
1月31日	【ECOSOC Youth Forum day 2 😊😊】	222	48

Instagramのフォロワー数は2017年の7月開始時から、現在の218人まで増加しました。(2018年2月10日現在)

広報戦略 総括

ユースフォーラム期間中にSNS全体の閲覧数やフォロワー数が増加したことから、SDGsやユースフォーラム、そしてHLPFの認知度向上に貢献できたのではないかと考えています。ブログと同様、日本の団体または日本語でユースフォーラムを発信している情報が限られるなか、唯一日本のユースの視点で報告したものであると評価できると考えます。情報発信においては、昨年のHLPF時と同様、“即時性”と“顔の見える発信”を心がけました。即時性においては、ツイッターやインスタグラムストーリーで会議の流れをリアルタイムで発信しました。ブログも会議中毎日更新できたことで即時的な情報発信ができたと自己評価しています。また、国連での会議やSDGsという話題は国際的かつ難しいテーマで自分とは関係のない存在と捉えられやすいため、派遣団のユースの写真やミーティングの写真などを出し親近感を持ってもらうように工夫しました。今後の課題としては、今回の会議を機にSDGsやHLPFに関心を抱いた人たちが、これらを自分ごととして捉え、実際に関わっていきたいと思ってもらえるようなSNS戦略アプローチをしていくことがあげられます。

成果

1月29日から2月1日までの4日間、私たちJapan Youth Platform for Sustainabilityからの派遣団はユースフォーラムに深く関わり今後のJYPS運営や方針決定に活かせる良い情報収集及びネットワークワーキングができました。今回のECOSOC Youth Forumには世界各国から700人以上のユースが集まりましたが、代表者たちが会議の中で話し、議論を行うだけでは意味がありません。学んだ知識や経験をこの会議の場にはいなかった人々や他のユースたちに還元し、それらを生か

して行動していく必要があります。そのために私たちはそれぞれのセッションのノートを取り、スピーカーごとに日本語と英語でのツイートをし、また毎日のブログ更新を通してこの会議で何が話されどのようなことが起きているのかなどを常に発信しました。

また、最終日には国連日本政府代表部に伺い、今回のユースフォーラムについてだけでなく、昨年のHLPFの振り返りや今年のHLPFに向けてどのように動いていくかなどの有意義な議論ができました。

今回のユースフォーラムを受けてのECOSOC総裁の成果文書は今年のECOSOC公式報告書として、HLPFの閣僚宣言の交渉の際に参考にされます。私たちはUN MGCYの一部として各種ユースの発言文章作成に積極的に関わりました。特に正式会議での発言は、それを参考にECOSOC総裁が成果文章を作成するため、結果としてJYPSが会議全体に影響を与えることができたと考えられます。また、JYPSとしては今後、その成果文章を使用し、ユースフォーラムで得た経験や知識を加盟員にきちんと共有し、7月のHLPFに備えていきます。

今回の会議の中でも様々なスピーカーから唱えられた、"誰一人取り残さない"という目標の実現のために、JYPSメンバーも持続可能な社会の達成に向けて今後さらに力を入れて活動していきます。